

# 平成18年度 施策評価シート

## 総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32310
政策名(章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当部	土木部
基本施策名(節名)	第3節 円滑な道路交通の確保	評価担当課	土木計画課
施策名	道路渋滞箇所の解消	課長名	佐藤 繁

## 1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

安全で円滑な道路交通確保のため、通行上支障となっている課題箇所の解消に向け、交差点の改良事業や鉄道との立体交差事業、橋梁及び踏切道の整備、改良等を行い交通容量の拡大を図るもの。  
 交通量が多く右折レーンのない交差点やバスの運行上支障となるものについて優先的に交差点改良を実施している。過去4年間で5箇所実施しており、今後も即効的手段として整備が望まれる。  
 また、鉄道との立体交差事業は共和地内で継続して事業を進めており、他の幹線道路との交差点についても渋滞解消に効果が大きいことから事業推進を図る必要がある。踏切道は、狭隘又は交差形状の悪いものについて交通ネック解消のため順次整備を進めている。

## 2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		137,941	
人件費		39,043	
市民一人あたりの事業費	297	265	
合計	182,650	176,984	

\* 人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

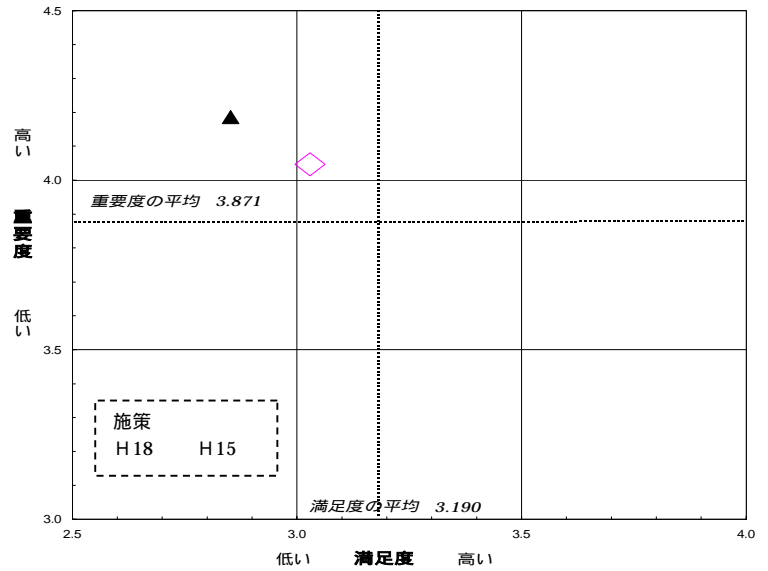
## 3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	主要渋滞ポイントの削減	交差点改良済み箇所数/改良予定箇所(35箇所)	46%	16
指標2	ピーク時の交差点通過時間 (整備前の通過時間)÷(整備後の通過時間)	(整備前の通過時間)÷(整備後の通過時間)		
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	51% / 51%	19	54%	21	63%	後期実施計画における整備予定箇所数(平成22年度末26箇所)を目標とする
達成率	100					
指標2						新たな指標として、今後の整備箇所について測定を行うもの。
達成率	#DIV/0!					
指標3						
達成率	#DIV/0!					
指標4						
達成率	#DIV/0!					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

## 4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.029で51施策の中で48番目。  
 重要度は4.047で16番目である。  
 改善要望度は0.2384で10番目である。  
 年齢別にみると、満足度は60歳以上で高くなっている。  
 重要度は40歳代で低くなっている他は、年代による差はあまりみられない。  
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位に大きな違いはみられないが、重要度は下がっている。  
 満足度の順位では、40歳以上で前回調査より上がっている。  
 重要度の順位では、70歳以上で大幅に下がっている。



## 5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4②1	施策評価判定基準のとおり	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4②1	国庫補助の導入などを進め、市の負担額の軽減を図っている。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4②1	施策評価判定基準のとおり	
合計		6	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

## 6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	交差点改良事業は即効的な効果が望めるが、他の道路改良事業同様用地取得が伴うため、事業が予定どおりに進まない。
解決策	短期的に集中投資および用地交渉等のために集中的な人員配分を行う。

## 7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

事業の結果だけでなく、交差点通過時間の変化など、施策目的に適合した指標の設定を行う必要があり、また設定された指標の目標値の水準が甘く高評価となっている。 今後とも用地の確保等に努め計画的な事業の推進を図っていく必要がある。	2次評価 B
--	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

## 8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向



